

第 2 1 回原子力安全検証委員会 議事速報

1. 「原子力発電の安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実（ロードマップ）」の取組状況および監査結果

「原子力発電の安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実（ロードマップ）」の取組状況および監査結果について報告し、審議。主な意見は以下のとおり。

○労働災害の傾向分析では墜落転落や「はさまれ」が多くなっているが、世の中では珍しくない災害が起こっているもの。美浜や大飯の労働災害でも、なぜ基本動作ができていなかったのか、現場で監督が常日頃からきちんと指導できなかったのかが問題。そもそも循環水管の上で作業する事自体が危険。危険要因の排除が安全対策の一步であり、しっかりと取り組んでもらいたい。（小澤委員）

○基本動作不遵守等の労働災害の防止には、本人の自覚が前提であるが、さらには現場において、安全性、危険性に問題を感知した者が、上司・部下、先輩・後輩の関係を抜きにして、お互いに遠慮することなく指摘し、声を掛け合うことが大事であると思う。また、リスクを事前に細かく掘り出しても限界があり、現場で気づくリスクへの対応が不可欠であり、リスクに対する現場での話し合い、安全性、危険性に対する声掛けの文化を醸成することが重要だと考える。（田中委員）

○作業員アンケートでは、約5千人のうち数%の方が労災防止の一部の取組みについて「できていない」と答えており、一方で発電所入構1年以下の方の労災が6割を超えていることから、こういった方々が初歩的な労災を起こしているとも考えられる。協力会社が作業員ごとに研修プログラムを作成し、関西電力が確認する必要があるのではないか。（山口副委員長）

○ロードマップ報告書は、社会に理解してもらうことが重要であり、独自に定量的な指標を工夫しているのは大変すばらしい。（山口副委員長）

○ロードマップ報告書で、リスクマネジメントについて、リスク評価の精度向上に努めているとあるが、それは結果であり、プラントの最新の状態を反映して評価していることが重要。また人材育成では、社内の活動だけでなく、社外の安全に係る議論や技術の進歩、安全文化を取り込むなど、社外との情報共有、意見交換に関する取組みがあれば記載されると良い。
(山口副委員長)

○美浜や大飯の労災について、リスクアセスメントをきちんと深掘りし、根本原因の追求を行う必要がある。また入構年数が短い作業員の労災が多くなっているということがわかった時点で、以降の分析はこの視点から行う必要がある。例えば、基本動作ディスカッションやパトロール等で新規入構者を主対象として行うなど、重点指向でないと効果は期待できない。
(荒木委員)

○ハットヒヤリや、何かミスした時も同じだが、そのことによって災害や過誤が起こらず、また作業に支障が生ぜずに終わってしまうと、感じたハットヒヤリが生かされないままになる。そのままにしておき、それが重くなると重大災害に繋がりがかねない。終礼時の報告を励行し、こういう事があったと必ず挙げてもらい、それをリスクアセスメントにも活用することが大切と思う。(渡邊委員長)

○労働安全コンサルタントから「人間はエラーをするのが当然」との助言があったというが、登山者が万全の装備を準備するように、作業員の装備、特に作業靴が適切かどうかにも注意してもらいたい。高所などリスクが高い所で作業する際は、元々は高齢者用に開発された物だが、転倒時にエアバッグが作動する腰ベルトを装着するなど、自動車の安全技術を導入したエアバッグなども活かせるのではないか。新規入構者への演習式の研修や関西電力による抜き打ちパトロールは続けてもらいたい。(松本委員)

○防災訓練について、指標だけで示すのは難しい。訓練は、万一の緊急事態に機器が想定通り動くか、組織として、職員個人として、適切に対応できるかを確認することが重要であり、毎回、目的、想定、内容等に変動があるものだと思う。規制庁は客観的に評価していると思うが、関西電力として、訓練ごとの重点事項、評価があると思うので、特記事項で良いので、そうした関西電力としての独自の取組み、評価を掲載してもらいたい。
(田中委員)

○人材育成に関して、原子炉主任技術者養成など発電所を動かすための計画はあるが、現在起こっている労働災害を抑えるための、作業リスクを評価する人材育成はどうなっているのか。主体は元請会社となるのかもしれないが、関西電力の中にもそれを評価できる人材がいなければならない。
(小澤委員)

○皆さんの努力で、ロードマップ報告書は毎回よりわかりやすくなっていることはこれまでも委員会で申し上げてきたが、規制庁が定めた基準等に基づく取組みに加えて、独自に、あるいは他例を参考にしたものもあろうが、関西電力がそのようにしてより安全性の向上のために工夫した事柄について、それと分かるように具体的に紹介した方が、より一層関西電力の取組みを一般の方に理解して頂けるのではないか。(渡邊委員長)

○リスクコミュニケーションの充実について、こちらから伝えるだけでなく、発電所周辺の地域の方にどのように伝わっているか、また難しいとは思いますが、効果を上げているかを考えおく必要があるのではないか。(小澤委員)

○防災訓練を通じて事故時対応能力を高めている事実はリスクコミュニケーションでは非常に重要であり、関西電力のHP上で防災訓練をアーカイブとして残してはどうか。防災訓練で得られた知見を積み上げ、積極的に情報発信していくこともリスクコミュニケーションとして必要だと考える。関西電力の管轄エリアに留まらず、有事の際に有益な情報となる。(松本委員)

2. 美浜発電所3号機事故の再発防止対策の取組状況

美浜発電所3号機事故の再発防止対策の取組状況について報告し、審議。主な意見は以下のとおり。

○上期に実施計画した協力会社とのコミュニケーションを下期に延期したとあるが、期を挟んでの僅かな実施時期の違いである。記載の必要はないか、あるいは表現を工夫してはどうか。(山口副委員長)

以 上